

# 京都教育大学 F D ニュース

No. 58

2011年3月16日

F D 委員会

\*\*\*\*\*

## 平成22年度第2回学内F D研修会を振り返って

今年度第2回の学内F D研修会は、前回に引き続き、前期学部F Dアンケート結果に基づき、学生らが意欲的に受講し満足度が高かった科目のなかから「小学校英語」をご担当されている英文学科の西本有逸先生を講師にお願いして開催いたしました。

「Flow & Depth: 私の考えるF D」というタイトルに示されたように、前半は、より深くより「高み」を目指し、教育の意味を学生と考えるという、いわば教育の本質について理論をふまえて丁寧にお話しいただきました。後半は、雪の金閣寺を訪問しての悲しいお話を少人数で作ってみるという楽しいワークショップを取り入れながら、小学校英語において、学生たちに「ことばが人格を創発する」「ことばを誠実に使う人を育てる」「外国語の学習は母語に帰ってくる」「コミュニケーションとは何か？」という本質的問いかけを企図しながら授業を作っておられること、さらに小中高のつながりのなかでの英語教育の在り方についてお話をいただきました。

今回も、教授会前の40分間（ご講演30分+質疑10分）という短い時間ではありましたが、教員だけでなく職員の方々にもご案内をいたしました。その結果、教員32名、職員3名、計35名の参加を得ました。また、研修後のアンケートも多く回収され、熱心な意見が寄せられましたのでいくつか感想を紹介しておきます。

### 〈研修会の感想〉

- ・論理的なご講演でよい勉強になりました。英語教育の意味や方法論を教えていただき、小一中一高の役割分担が明確になりました。
- ・深い理論に関しては理解しきれなかったですが、私自身のコミュニケーション能力の在り方が分かったように思います。きっと、西本先生の授業を（英語教育を）受講する学生は軸がズレず、方向性が明確な英語教育ができるようになると思います。ありがとうございました。



- ・表層を深めて、根元的なものにあたることの大切さを改めて感じました。
- ・グラマーがコミュニケーションを解き放つことを理解すると、難しい（とっつきにくい）文法を勉強する目的がはっきりすると思いました。
- ・広く様々な授業の方法に繋がりそうな本質的なことを学びました。
- ・これまでとは少し違うテーマのお話で興味深く聴かせていただきました。
- ・コミュニケーションの意味についてのお話は今まで考えなかった視点で参考になりました。
- ・難しい概念が多く出てきて、ついていくのが大変でしたが、現在の小学校英語必修化における状況が音楽の分野にもそっくりあてはまるのではないかと思いました。
- ・「言葉を大切に扱う」ことは、とても大事で心に残りました。
- ・「表現をする」ことにおいて、音楽にも共通点が見い出せて、興味深く聞かせていただきました。
- ・言葉とコミュニケーションについて深く考える機会になりました。
- ・笑いが生じるのはどの国でも起こるという話は大変興味深いものがあった。これは人間の照れ隠しか？ 人間独特の、他のものへの対立緩和の本能というものか？
- ・大変深いお話でした。

#### <FD 研修や FD アンケート調査について>

- ・いろいろな分野の話を伺えて、とても勉強になります。ありがとうございます。
- ・どうすれば、もっと参加者が増えるのでしょうか？
- ・参加数が少なくても、この研修会を続けて開催ください。とても意味があると思います。

#### 【録画DVDの貸し出しについて】

研修会をご欠席された方には、教務課から録画DVDを貸し出ししております。  
ご希望の方はご連絡ください。

連絡先：教務課教育グループ（8549）



\*\*\*\*\*

## 大学院教育学研究科授業アンケートの集計結果（一部）について

平成23年1月5日に他大学出身者を対象に大学院教育学研究科授業アンケートが実施されました。アンケート項目のうち、FD委員会に関わる3つの設問について、結果を集計いたしましたのでご報告いたします。尚、本アンケートは大学院授業改善WG・FD委員会の合同で、次の目的をもって実施されました。

- (1) 他大学出身者の本学大学院入学の目的について調査し、制度上の問題点と改善点をさぐる。
- (2) 開設授業科目と院生の要望する授業内容との整合性について調査する。
- (3) 大学院全体の教育の質を高めるためのFD活動の基礎資料とする。

今回は設問項目のうち、設問8についてのみ結果を以下に示します。カッコ内は実数と割合を示しています。尚、表に示しますようにアンケートの回収率は57%（27名）でした。

設問 8. 授業内容について

「大学院の開設科目の内容と、あなたの学びたい内容との整合性についての質問です。

本学大学院で開設されている科目の内容は、あなたの期待に応えるものでしたか？」

期待以上通り      ・      期待通り      ・      期待外れ      ・      その他  
 (7名, 26%)          (18名, 66%)          (1名, 4%)          (1名, 4%)

「教科内容論・実践特別演習などの実践的科目は、あなたの期待に応えるものでしたか？」

期待以上通り      ・      期待通り      ・      期待外れ      ・      その他  
 (7名, 26%)          (19名, 70%)          (0名, 0%)          (1名, 4%)

表 アンケートの専修別回収率

所属	配布数	回収	回収率(%)
学校教育	21	8	38
障害児教育	1	1	100
社会教育	7	6	86
理科教育	8	4	50
英語教育	1	1	100
国語教育	1	1	100
数学教育	1	1	100
音楽教育	3	1	33
家政教育	1	1	100
美術教育	3	3	100
合計	47	27	57

(総評) 開設されている科目について、90%以上が「期待通り」と回答しています。また、実践的科目に対する期待をもって、本学大学院に進学を希望したことがうかがえます。アンケート全体の集計は別途、報告の予定です。

\*\*\*\*\*

FD研修会に関する問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いします。

FD委員会委員：岡本（委員長）、水谷（副委員長）、芝原、井上、杉井

